

米国

ISM景況指数 (2020年7月)

製造・非製造業ともに回復も、先行きは楽観視できず

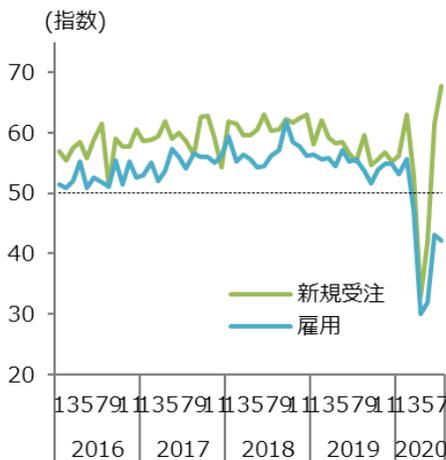
政策・経済研究センター  
田中高大  
03-6858-2717

1 総合指数



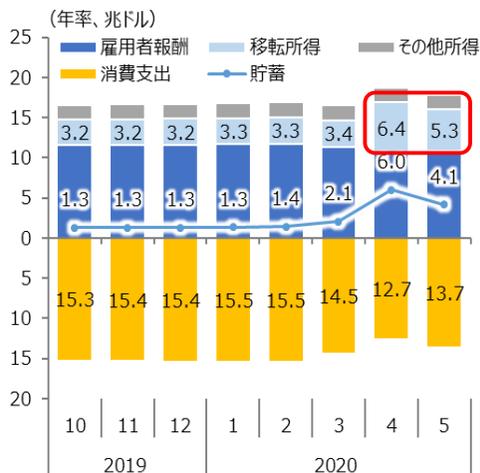
出所：米供給管理協会 注：新規受注・生産などの項目について、前月と比較して「良くなっている・変わらない・悪くなっている」の3択で行った企業アンケート結果を、加重平均して算出。50を上回れば景気拡大、下回れば縮小を示す

2 非製造業の新規受注・雇用指数



出所：米供給管理協会

3 米家計収支動向



出所：米商務省経済分析局より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 7月のISM製造業景況指数（総合、8/3公表）は、54.2と前月（52.6）からさらに上昇し、2カ月連続で50を上回った。
- 製造業の指数を構成する5項目のうち、在庫（47.0）と入荷遅延（55.8）が低下した。一方で、新規受注（61.5）や生産（62.1）は大きく上昇し、2018年秋以来の高水準となった。雇用（44.3）は上昇したものの、依然50を下回っている。業種別では、18業種中13業種が活動拡大を報告している。
- 7月のISM非製造業景況指数（総合、8/5公表）は、58.1と前月（57.1）からさらに上昇し、製造業と同じく2カ月連続で50を上回った。
- 非製造業の指数を構成する4項目のうち、雇用（42.1）と入荷水準（55.2）が低下した一方、ビジネス活動（67.2）と新規受注（67.7）は上昇した。業種別では、鉱業、専門・科学・技術、その他サービスを除く15業種が活動拡大を報告し、宿泊・飲食、娯楽など新型コロナで大きな影響を受けた業種も拡大を維持している。

基調判断と今後の流れ

- 米国企業の景況感は4月を底に回復しているものの、先行きは楽観視できない。
- 世界経済の回復スピードが緩やかであることや、6月以降、経済活動再開を優先した南部・南西部を中心に新型コロナの感染が再拡大していることを踏まえると、元の水準に戻るにはかなりの時間を要するだろう。
- 特に非製造業は、感染拡大に伴う外出制限・自粛の影響を受けやすいため、今後の感染状況を注視する必要がある。活動再開は進んでも、雇用拡大に対して企業は慎重な姿勢をとっていることが伺える（図表2）。
- さらなる下振れリスクとして以下の二点に注意が必要である。第一に、感染再拡大地域の増加や感染長期化である。第二に、7月末で期限切れした失業給付特例の法案が議会で不成立となることである。7月までは現金給付や失業保険増額により、家計収入は増加していたが（図表3）、上乗せ額をめぐり合意が難航している。雇用の戻りが悪い中で感染拡大と失業保険増額失効が重なれば、消費に深刻な影響を与えかねない。